

Koranda

Medizinische Terminologie

Deutsch-, Lateinisch-,
Englisch-, Französisch-
Japanisch

醫學博士 賀川 哲夫 編

医学博士 清水 俊吉 監訂

標準医語辭典

德・英・和・一

Nanzandes

Medizinische Terminologie

Deutsch-, Lateinisch-,
Englisch-, Französisch-
Japanisch

医学博士 賀川哲夫 編

医学博士 浦久保富士雄 改訂

標準医語辞典

独 羅 · 英 · 仏一和

南山堂

標準医語辞典

定価 3,000円

1936年3月28日 初版発行
1963年4月5日 改訂30版発行
1966年4月15日 増補32版発行
1969年4月1日 第33版発行
1972年4月1日 第34版発行

原著者 賀 川 哲 夫

改訂者 浦 久 保 富 士 雄

発行者 鈴 木 正 二

発行所 東京 南山堂

東京都文京区湯島4丁目1番11号

郵便番号 113-91

電話東京(03)811-7241(代)

振替口座 東京 6338番

検印省略

3047-012134-5627

研究社印刷

©1966

改訂の序

私は学生時代から標準医語辞典を使用しているが、その豊富な語数、正確さ、独創性等について、編者賀川氏に心から敬意を表しているものである。

しかし、この十数年間における医薬学部門は、史上その例を見ない躍進を遂げており、正に隔世の感がある今日、本書もいささか現代性が失われ、新語彙、新意義等の不足を痛感されていたところ、南山堂から本書の改訂を依頼され、難事業ではあるが非才を顧みずお引き受けした次第である。

改訂にあたっては、もちろん新語彙の採録、訳語の刷新、新意義の収載、平明な言葉の表現等に努めたが、特に本書従来の優れた特徴を一層発揮させるよう意を用いた。最も困難を感じたことは、用語の統一の問題であった。同一語でありながら、各科別々の表現をしているのが現状である。本書は大体、各科選定の用語ならびに慣用の語に従ったが、全般の統一には最も苦心を要した。用語統一は今後医学界全体の重要な課題となろうが、医学用語整理委員会によって一日も早く達成されんことを切望する。

なお進行途上いろいろな問題に直面したが、南山堂編集部員の絶大な協力を得て幸い完成を見ることができた。ここにそれらの諸氏に深く感謝の意を表する。

昭和 38 年 2 月

亡き母を想起しつつ

浦久保 富士雄

初版の序

大正六年一月東大皮膚科の戊戌会で時の教授土肥慶藏先生の大学卒業二一五年記念論文集を編集したことは、まだ吾々の記憶に新しい。その際私は編集員の末班を演じ、専ら集り来る論文の点検と校正とを受持つていたので、論文中の医学用語に関して屢々土肥先生の御指図を仰いでいたが、その用語の甚だ不統一なものには随分困つたのである。この事は皮膚科泌尿器科雑誌の編集に際して土肥先生が夙に心を砕いておられたことであつたので、将来のために医学用語を統一しなければならぬことが今更のように感ぜられ、また一つには或る論文中に「生活環 *Circulus vitiosus* 云々」という句があり、その前後を見ると、この論文の著者は *Circulus vitiosus* の意味は知つてゐるのであるが、*vitios* という形容詞と *Vita* という名詞とを混同したためにこういう誤訳をしたのだと思われたので、医学用語の統一と同時に外国語の正しい訳を示す所の何物かがなくてはならぬことが切に感ぜられた。この二つの要求に促されて土肥先生は標準となり模範となるべき医学辞典の編纂を思い立たれ、私にその助手を命ぜられたのである。然るに先生は当時梅毒史の研究に没頭せられ、御不快中も病床で草稿の点検をなさるというほどの熱心さで、遂に不朽の名著「世界梅毒史」が完成すると、引き続いて「性病学」の著述に着手せられ、約二カ年で「性病学第一巻」が脱稿すると、あの関東大震災で、東都の人心は一時復旧に集注せられてしまつた。斯くして計画を立てただけで何等の進捗をも見ることなく五年の歳月が流れた。

ところが震災の翌々年即ち大正十四年の或る日私は意外にも南山堂主鈴木君から医学辞典の編纂を懇懇せられたので、俗に

いう焼木杭に火が付いた形で、私は早速土肥先生に嘗ての企を早く実現し度い旨を陳べたが、先生は遠からず欧米視察の途に上られる御予定で、その準備のために色々と御多用であり、具体的打合せをすることが出来なかつた。やがて六カ月の欧米御旅行恙なく御帰朝になつた先生に或る日私は再び辞典編纂の御相談を持ち掛けたところが、先生は一つには近時身体が幾分疲労しているようであり、辞典編纂の如き仕事は困難であるのと、二つには新たに素問靈樞の研究を企てているから、辞典編纂は一切を挙げて私に任かすといわれ、編纂上の綱領として次の六項を示された。

1. 編者の Originalität を具えた辞典でなければならぬ。単なる編纂書ではなく一つの Arbeit を仕上げる覚悟を以てすること。
2. 医学、薬学を主とし、なお化学、物理学、動物学、植物学、遺伝学、古生物学、地質学、天文学、心理学、哲学等より必要なる単語(名詞、形容詞、副詞、動詞、略字、符号)を採択すること。
3. ドイツ語、ラテン語を主とし、その他の国語はそのままドイツ医学に於て使用されているものを採り、且つ後者及び人名は各々その国籍を明記し、それに従つて正確なる発音を示し、国籍を無視した従来のドイツ語を正すこと。
4. 訳語は成るべく慣用のものを採り、各分科に於て既に選定した用語あるものはこれに従い、新語は成るべく字義に忠実な訳語を選定し、必要な説明を付すること。
5. 新語を成るべく多く採録して現代的辞典たらしめ、且つその現代性を永久に保証するために随時新語を追捕する

こと

6. 初歩の医薬学生より大学教授級の医薬学者に至るまで、あらゆる知識階級者に向って役立つ辞典たるべきこと。

まことにむづかしいテーマである。しかしこの六項目を読むときは、学術に真摯な土肥先生の偉が躍如たるものがある。私はこのテーマを解くに適任でないことをよく知っていたが、先生の御指導によれば不可能ではないと思ったので、上の六項目を目標として編纂に着手したのが昭和二年の晩秋であった。その後屢々土肥先生の御指導を仰いで材料の蒐集に努めていると、昭和六年十一月六日というあの悲しむべき日が来て私は茫然自失し、大海で權舵を奪われた捨小舟同様になってしまった。

その後は全く独力で努力したが、私の浅学非才に揭て加えて、開業医としての仕事が多岐の時間を奪い、なお二三雑誌の編集に携わっていたので、辞典の方は牛歩の如く遅々として進まず、徒らに焦慮するばかりであったが、着手以来十年目の今日、漸く完成を見るに至ったのである。

さて土肥先生の提示せられた六項目中で私が最も苦心したのは、新語の採択であった。この事は辞典の現代性を保証するために絶対に必要な条項で、私の如き者にあっては非常な難事業といわなければならぬ。私は新語の採択は内外の医学雑誌を材料としたのであるが、各専門分科全般にわたって新語を拾うことは非常に困難であったために随分苦心し、私として出来得る限りの努力をなしたつもりであるが、なお完璧を期することの出来なかったのはまことに慚愧に堪えない。

斯くして今日本書の編纂を終ったのであるが、その完成は勿論私一人の力によるのではなく、土肥先生の御指導はいうまでもなく、なお東大教授呉建博士、杏雲堂病院の佐々麻平博士、

東京市施療病院の三島肅三博士、三井科学研究所の河野雙二学士の御教示に俟つ所少なくなく、仁村学士の三ヵ年にわたる日夜の援助は得難い不絶の鞭撻であり、また厳密なる校正は南山堂編集部員の絶大なる努力の賜である。これら各方面からの多大の援助を得て始めて今日あるを付たことを記して深厚の謝意を表する。

昭和十一年春

賀川 哲 夫 識

Les travaux lexicographiques

n'ont point de fin.

—Lit:ré—

凡 例

1) 名詞は頭文字に大文字を用い、その他の品詞は小文字を用いたが、英米語で2語以上から成り、これによつて一つのまとまつた思想を表わすものでは、最初の頭文字を大文字で記し、これに従つてこの語の所属を定め、その他は品詞の何たるを問わず、すべて小文字で記してある。例えば **Arteriocapillary fibrosis, Aseptic bonewax, Cod liver oil** などは A, C を大文字で記し、A, C の部に配置してある。

2) ラテン名詞には必要と思われたものに限り二格の語尾を示し、ハイフンを冠するゴジノク体にして括弧に入れ、名詞の直後においた。

Apex(-icis) は Apex の二格が Apicis なることを表わす。

3) ラテン名詞の複数形を示すには、三方法を用いた。第一は単数名詞に複数語尾を添えればよいものでは、その語尾をゴジック体となし括弧に入れて単数名詞の直後におき、その名詞の性を示す略字の直後に (pl) を添え、**Arteria(e) f(pl)** のような形式とし、第二は単数の語尾を変化して複数形を作るもので、単数形の直後に pl. とハイフンを冠した複数語尾を括弧に入れて示した。すなわち **Ligamentum (pl. -a)** のように um が a に変化することを示す。第三は不規則な変化をなすもので、複数形全体を括弧に入れて単数形の次に示してある。

4) 人名はイタリック活字を用いて他と区別したが、これをラテン語の形容詞として語尾変化を与えてあるものにはイタリック活字を用いてない。一人の人名の読方には「(人名)」を添え、二人のものには「(兩人名)」を添え、三人のものには「(三人名)」を添え、二人以上の人名はハイフンで連結してある。同じ

くハイフンで連結してあつても、その読み方に「(人名)」が添えてあるのは一人の人の名である。

Aschheim-Zondek アッシュハイム・ツオンデック (兩人名) は二人であることを表わす

Albers-Schönberg アルベルス・シェーンベルク (人名)

Wolff-Eisner ウォルフ・アイズネル (人名)

などは一人であることを表わす。

5) 人名の国籍を明示することは非常に困難であつた。それは外国の医学辞典を調べて見ると、出生地を示したものと、医師として活動していた地名を示したものと二様あり、また場合によつてはその何れであるかを知り難いものもある。本書では医師として活動していた地名に従つたのであるが、それによつて読み方を示すと、従来の読み方とは著しく違つたものとなるのである。

本書の人名は姓のみを取り、名を無視したために、同姓の異人が同一場所に配列される結果となつた。これを一々名によつて区別するのは煩雑を増すから、それを避けたのである。

6) **von, de, du, d'** などを冠する人名は、この冠語の頭文字による配置と、この冠語を除いた人名の頭文字による配置との両方に出してある。

7) 接頭語を有する複合詞は、見出語で接頭語をハイフンを用いて切り、同一接頭語を有する語をここに集め、二番目以下の語では、接頭語を省略しハイフンを頭に付けた結合語のみを記してある。

Alkali-albuminat……, -metalle とあるは **Alkalialbuminat, Alkalimetalle** であることを表わす。

8) 語の直後にある括弧内の細字イタリックは、この語を初

めて用いた人の名である。

Anaphylaxie (*Richet*) は *Richet* が初めて *Anaphylaxie* という語を使用したことを示す。

ゴジック体を活弧に入れたのは、この字が無くてよいことを示す。

Antipyrin(um), apochromat(isch), Ascari(di)asis などは *Antipyrin* でも *Antipyrinum* でもよく、*apochromat* でも *apochromatisch* でもよく、*Ascaridiasis* でも *Ascariasis* でもよいことを示す。

9) 綴りが僅かに異なる同意語は同所に併記し、その間にコンマを入れてある。また = は同意語であることを示す。例えば

Anamnia, Anamniota

Alastrim = weiße Pocke, Kaffernpocken

10) ラテン語、フランス語のように形容詞が名詞の後方にあるものは、名詞の頭文字に従って集めてあるが、ドイツ語ではこれを二様に取扱つてある。すなわち

a) 第一は形容詞と名詞を離してみても語意に著しい差異の無いもの、換言すれば形容詞が単に名詞の意味を修飾するに過ぎない詞では、名詞の頭文字に従って配置し、その後方に形容詞を置き両者の間にコンマを入れてある。

Homiletik, ärztliche は *ärztliche Homiletik* である。

b) 第二は形容詞と名詞の結合によつて特別の新しい思想を表わすもので、両者を離せば、その特別の思想が破壊されるような詞では形容詞の頭文字に従って配置してある。

arabischer Aussatz, arabisches Gummi のような語はこれに属する。

11) ラテン語の形容詞は語幹のみを見出文字としこれに男

性、女性、中性の順序で語尾を括弧に入れて示し、不規則変化をなすものは、男性形を見出文字とし、女性形と中性形とを括弧内に示してある。またドイツ流の語尾変化をなしてドイツ語の形容詞としても用いられるものにも、ラテン語尾を示してある。

amar(-us, -a, -um)

temporal(-is, -is, -e)

acer (acris, acre)

dexter (dextra, dextrum)

12) ドイツ語の形容詞が見出語となつていて、性を異にする種々の名詞を形容する場合には、最初の形容詞にはそれが形容した名詞に応じた語尾を括弧に入れて示し、二番目からは、省略して単に頭文字のみを示してある。

brechend(es) Auge n....., b. Kante f.....,

b. Winkel m.....

13) 語の配列について注意していただきたいことは、ウムラウト符号を *e* と見なしてあることで、普通のドイツ辞書では *Ödem* を *Odem* の位置に入れてあるが、本書ではこれを *Oedem* と見なして *Oecoid* と *Oeder* との間に配置してある。*ä, ü* 等もまたこれと同様に取扱つてある。

14) 一文字が二行にまたがる際、その分綴法は文法上の規則に従うべきは勿論であるが、植字上の都合で規則を無視した分綴を行つたものがあることを見逃していただきたい。

略 字 解 説

1) 国名を示すには次のような略字を用いた。

[A.] ア メ リ カ	[It.] イ タ リ ア
[Arg.] アルゼンチン	[Nor.] ノールウェー
[Austr.] オーストリア	[Peru.] ペ ル ー
[Belg.] ベ ル ギ ー	[Pol.] ポ ー ラ ンド
[Br.] ブ ラ ジ ル	[Port.] ポルトガル
[Chech.] チェコスロバキア	[R.] ロシア(ソビエト)
[D.] ド イ ツ	[Ru.] ルーマニア
[Dän.] デンマーク	[Schw.] ス イ ス
[E.] イ ギ リ ス	[Schwed.] スウェーデン
[F.] フ ラ ンス	[Sp.] スペイン
[Gr.] ギ リ シ ャ	[T.] ト ル コ
[Holl.] オ ラ ン ダ	[Ung.] ハンガリー

2) 如何なる学科で用いられる語であることを示すには次のような略字を用いた。

[処方] 処方用語	[昆] 昆虫学
[遺] 遺伝学	[血清] 血清学
[植] 植物学	[免] 免疫学
[動] 動物学	[解] 解剖学
[化] 化学	[歯] 歯科学
[物] 物理学	[古生] 古生物学
[地質] 地質学	

3) なお次のような略字を用いてある。

od. } . . . 「或いは」「別名」の意を表わす
s. }

sing. 単数 pl., pl. 複数

m 男性名詞 n 中性名詞 f 女性名詞

複数名詞の略し方は、従来の方式と異なり、一見して複数語尾を知ることができるように、その名詞の頭文字に複数語尾を添えてある。例えば Ligamentum の複数形略字は従来の方式では Ligg. であるが、本書ではその複数形 Ligamenta の頭文字と語尾とを接合して La. としてある。

略語・記号について

近時わが国の医薬学部門の発達は主としてアメリカ医薬学をとり入れることによってなされたと言っても過言ではないと思われる。

また医薬学のみならず、いわゆるメディカルエレクトロニクス等の機械の使用も多くなり、それにつれて論文等の発表も、能率的で便利な略語や記号が用いられることが多くなってきている。特にここ数年來わが国では、この傾向が漸次強くなる一方で、今日医薬学雑誌等を翻くと、略語が充ちあふれないことはないという状況である。この傾向はただわが国だけでなく、欧米の雑誌・成書にも現われている。

従って略語・記号の数も夥しく、その意味も各科によって異なるというような現象も生じ、専門科以外の者には見当もつかない意味を表わしているものが使用されている場合もあるようである。このようになると、本来便利であるべき略語・記号が、局外者にとっては却って難解なものとなってくる。

このような不便さを幾分でも救う趣旨のもとに、今回、巻末付録として略語表を増補した。これは現在広く慣用されていると思われるものを選び、次のような要領によって採録したものである。

- 1) 外国でも使用され、語源的に無理がなく、容易に首肯できるもの。
- 2) 多少の無理にあっても、すでに広く通用されているもの。
- 3) 公的機関、たとえば新薬協会で定められた抗生剤の略語等。
- 4) 本来の語よりも却って周知されているもの、たとえば ^{131}I 等。
- 5) あまりにも専門的で普遍性のないもの、また現在は通用してはいないが語源的に無理があり永続性がないと思われるものは、これを省略した。

現在、生化学分野等では、略語があまりにも多すぎるため却って混乱を招き、最近ではこれを減らそうとする傾向にあるという。当然なことと思われる。しかも、前にも述べたように、各科で別々の表現をしているものが多く、判断に迷うこともあるので、現在野放し状態にある略語・記号を、医学用語委員会によって、全般の用語統一と共に、一日も早く整理されるよう希望して止めた。 (1966年1月 浦久保信士雄)

photatarium.

Abapiston *n* アバピストン (脳質を損傷しないようにした穿頭器の一種).

Abarthrose, Abarthrosis, Abarticalation *f* ① 全動関節. ② 脱臼.

Abartung *f* 変種, 変質, 退化, 崩壊.

Abasia, Abasie *f* 失歩, 歩行不能.

Abasieastasia *f* 起り歩行不能症.

Abasin *n* アバジン (アセチルアルグリン).

abatisch 歩行不能症の. 「虚脱」.

Abattement (アバ、マン) *(F.) m* 衰弱.

abaxial 中軸から遠ざかった, 末梢側の.

Abbau *m* 崩壊, 腐敗 (放射能物質の). 分解, 解構 = Dekomposition. -ferment

n 分解酵素 (**Abderhalden** 防御酵素のこと).

-produkt *m* 分解産物. -stadium

n 分散期 = Metastasis.

Abbe (D.) アッベ (人名). **A.' Beleuchtung**

apparat *m* = 照明装置 (顕微鏡の

レンズに光線を集中させるようにでき

ている装置). **A.' Kondensator** *m* =

集光器. **A.-Zeiss** ~ ツァイス (二人名).

A.-Z.' Apparat *m* ~ 装置 (血球計算

器).

Abbe (A.) アッベ (人名). **A.' Methode**

f ~ 法 (変形治癒尿管の上唇緊張後退に

対する修正手術式の一). **A.' Operation**

f ~ 手術 (腸管を用い, 腸管の側面

を吻合する手術). **A.' Schnürme-**

thode *f* ~ 絞縛法 (食道狭窄の際, 絞縛

を食道に通じて狭窄部を切開する法).

A.-Neuber ~ ノイベル (二人名). **A.-**

N.' Operation *f* ~ 手術 (口唇形成術

abbeizen 腐蝕する. 「の」.

Abbildungsvermögen *n* 結像能力.

Abbinden *n* ① 結紮 (自己輸血の目的で

四肢を強く巻くこと). ② 切斷法 (有茎腫

瘍を絞縛して切斷する方法). ③ 凝結, 硬

化.

Abbindung *f* 結紮除去, 包帯を除くこと.

Abbindungsexpansion *f* 固化膨脹.

abblättern 脱皮する, 剝脱する, 葉状落

屑する.

Abblätterung *f* = Exfoliation.

abblässen 退色する. 「症 (視神経の).

Abblässung, temporale *f* 側頭部退色

abblenden 遮光する (顕微鏡の遮光孔を

小さくして光線射入を少なくする).

Abbotts (E.) アボット (人名). **A.' Paste**

f ~ 泥膏 (歯神経を死滅させるもので亜

硫酸, モルヒネ, クレオソートから成る).

Abboti (A.) アボット (人名). **A.' Me-**

thode *f* ~ 方法 (骨性前弯症でハンモッ

クの上に背臥させて後弯症の体位をと

らせ, 両側に牽引帯とギプス帯を用いて

整位する方法) **A.-Rawson** ~ ローソ

ン (二人名). **A.-R.' Sonde** *f* ~ ソン

デ (二重管になった胃カテーテル)

Abbrand *m* 熔鉱 (熔焼した鉱石).

Abrenglocke *f* 燃焼鐘.

ABC-Pflaster *n* アーベー ツェー 硬膏

(Arnica, ロート, 著紙から成る). -Pro-

zeß *n* アーベー ツェー 処置 (閉鎖 Alun,

血液 Blood, 泥土 Clay 及びその他の物質

で下水を清める方法).

abdämpfen 鈍化する, 静伏する, 消退す

Abdämpfung *f* 鈍感, 消退. した.

Abdampf-apparat *m* 蒸気装置, 蒸気器.

-kessel *m* 蒸気釜. -pfanne *f* 蒸気皿.

-rückstand *m* 蒸気残渣. -schale *f*

Abdämpfung *f* 蒸気. した.

Abdämpfungswärme *f* 蒸気熱.

Abderhalden (D.) アブデルハルデン (人

名). **A.' Abwehrferment** *n* ~ 防御

酵素 (異種蛋白を分解する血清中の酵素.

Abwehrferment 参照). **A.' Methode**

f ~ 法 (血漿異質物質があるときには血

中にこれを分解する酵素が生ずる. これ

を証明するのに膜法と分光法とがあ

る. 妊娠診断法として用いられる). **A.'**

Reaktion *f* ~ 反応 (防御素反応. Ab-

wehrferment 参照).

Abdociain *n* アブドカイン (p-Amino-

benzoyldiäthylaminomethanolchlorhy-

-drat. 局麻剤).

Abdomen *n* 腸, 腹. [drat. 局麻剤].

Abdom-Ilon アブドム・イロン (Abninth,

Angel, Calamus. Carvi, サフラン, フラ

ングラ, ゲンチアナ各流エキスを含み, 手

術後の疼痛, 付風器炎, 小腸結腸炎, 痙

攣性結腸炎, 鼓腸に用いる).

abdominal(-is, -is, -e) 腹の, 腹式の,

腸の, 腹壁の, 腹腔の.

Abdominal-atmung *f* 腹呼吸. -druck

m 腹内圧. -ganglion *n* 腹神経節

-kaiserschnitt *m* 腹式切開術. 腹式

帝王切開. -myalgie *f* 腹壁筋痛症 (リウ

マチ性の腹壁筋痛でしばしば腹腔内臓器

の疾患と誤診される). -nervenfieber

n 腸チフス. -reflex *m* 腹壁反射. -re-

spiration *f* 腹呼吸. -ring *m* 腹輪, 腹

徑輪. -schwangerschaft *f* 腹腔妊娠.

-schwindel *m* 胃腸性眩暈. -tuber-

kulose *f* 腹節結核症. -typhus *m* 腸

チフス.

abdominell 腹部の, 腹腔の, 腹式の. **a.**

Migräne *f* 腹腔性頭痛 (急性アレルギー

性腹腔病の一種で食物アノフィラキ

シーのために突然, 不安, 眩暈, 悪心, 嘔

吐, 下痢, 腹痛, チアノーゼ, 筋痛, 呼吸困

難, 虚脱等を起すこと). **a. Trias** *m* 腹

部三腺様 = Trio adominis.

Abdomino-hysterektomie *f* 開腹的子宮

摘出. -hysterotomie *f* 開腹的子宮

切開, 帝王切開. -skopie *f* 腹部視診法.

Abdruck *m* 印象 = Impressio. kombi-

niert *A.* 適合印象.

Abdruck-löffel *m* トレー (歯科用).

-methode *f* 印象法.

Abdruckgips *m* 印象ギプス.

Abdruckmaterial *n* 印象材. elas-

tisches *A.* 弾性印象材.

abducens 外転の, 外旋の.

Abducenslähmung *f* 外転神経麻痺.

otogene *A.* 耳性外転神経麻痺.

Abductor *m* ① 外転筋, 外旋筋. ② 声

門開筋 = Glottisöffner.

Abduktion *f* 外転.

Abduktions-chlottern *n* 外転性動揺.

-doppelrechtwinkelschiene *f* 外転

二直角副子. -gipsverband *m* 外転ギ

プス包帯。-hinken *n* 外転跛行。-kon-
traktur *f* 外転拘縮。
Abduktion *f* 牽引。
abduzieren 外転する。
Abduzierung *f* 外転、外旋。
Abetici-Campi アベチチ・カンピ(阿
人名)。A.-C. Pförtneraufnahme
f 阿門爾攝影法(体壁を通じて肺臓を穿
刺して造影剤を肺実質内に注入して撮影
する方法)。
Abé (D) アベー(人名)。A. Stütze *f*
~支持帯(心臓部に用いる)。
Abel-Loswenberg (D.) アーベル・レーン
ベルグ(阿人名)。A.-L. Bacillen *m/pl*
~菌(臭鼻症病原菌)。
Abelmoschusmoschatus *m* = Hi-
biscus abelmoschus。
Abendsteigerung *f* 日晩潮熱。
Abepithymie *f* = Aneptymie。
aberrans 迷行性の、迷走性の。
Aberratio *f* ① 斜行(光の)。迷行(光の)。
収差。② 異常、錯乱。③ 胚嚢侵入。A.
(error) loci 部位迷錯。定位外発生は
Heterotopia。A. temporis 定期外発
生。時期迷錯は Heterochronia。A. testis
精巢(睾丸)転位。
Aberration des Lichtes *f* 光線迷行。
収差。chromatische A. 色収差 =
Newton's A. dioptrische A. 屈折収差。
distantielle A. 距離収差。sphäri-
sche A. 球面収差。
Aberwitz *m* 精神薄弱。
Abevakuation *f* 病的排泄、弛移。
Abfall *m* 廃棄物、脱落物。-rühr *n* 排水
管、排水管、排水管。-stoffbeseitigung
f 汚物処理。-stoffbeseitigung 廃棄物
除去。-stoffe *m/pl* 残渣、废物、副産物。
-wasser *n* 下水。
abfiltrieren 濾別する。
Abflußhindernis *n* 流出障害。
abführend 瀉下の、排泄性の。a. Mittel
n 下剤。a. Muskel *m* 外旋(転)筋。
Abführ-klystier *n* 灌下洗腸。-latwer-
ge *f* 灌下器具。モンナ練剤。-lmona-
de *f* 灌下リモナーゼ。
Abführmittel *n* 下剤。salinisches A.
塩類下剤。vegetabilisches A. 植物
性下剤。
Abführmus *m* センナ練剤。-pillen
f/pl 灌下丸薬。-salz *n* 塩類下剤。
Abfurchung *f* 断節分裂。
Abgänglich *m* 流産児、汚物。
Abgas *n* 廃ガス、廢氣。
abgehen 流産する、産胎する、消失する。
abgekapselt 包埋された。
abgekürzt *f* Thermometer *m* 短縮寒
度計(0-360°を6.7本に分けた寒度計)。
abgelaufen 経過した。
abgeschlagen 表えた。
Abgeschlagenheit *f* 衰態、へばり。
abgesetzt 中断的の、結代した、間歇性の。
Abgespanntheit *f* = Abgeschlagenheit。
abgliedern 断断する、切断する。
Abgliederung *f* 解体、断断、断節断断。
Abhärtung *f* 強固、硬化、固定、無情、自

制、強壮法(冷水曝露、日光浴等による)。
Abhärtungsmittel *n* 強壮法、強壮剤。
abbäuten 脱皮する、剥脱する。
Abhang *m* 斜合、小脳(小脳正の後部)。
= Declive。
Abhangsfortsatz *m* 蝶形有床突起。
Abies *f* モミ(樺)属(松杉科 Pinaceae)。
A. alba 本属の一種(ストラスブルグテ
ルペンチンを生ずる)。A. balsamea
バルサム樹(カナダバルサムの母樹)。
A. canadensis カナダ産アビエス(カナダ
バルサムの母樹)。A. pectinata = A.
alba (Picea)。
Abietin *n* アビエチン(樺属より得た樹脂)。
-anhydrid *n* 無水アビエチン $C_{19}H_{26}O$ 。
-säure *f* アビエチン酸 $C_{19}H_{24}O_2$ 或い
は $C_{19}H_{26}O_2$ 。
Abietit *n* アビエチン $C_{19}H_{26}O$ (Abies
pectinata の針葉から採ったマンニト)。
abimpfen 痘瘡を採る(膿疱より採菌す
る)。
Abimpfung *f* 直接接種法(痘瘡を受けた
者の痘瘡から膿を採り他の者に接種する)。
Abiochemie *f* 無機化学。[こと]。
Abiogenese, Abiogenesis *f* 原生的発
生、自然発生、偶発。
Abion *n* アビオン(光線エネルギーの單
位。黄金色ブドウ球菌 1,000,000 個を中
性生理食塩水 1 ml 中に播散浮遊させて
1 cm の距離から 1 秒間光線を放射して
完全に殺菌し得る光線エネルギー量)。
Abiose, Abiosis *f* 生活力欠如、早期老衰。
abiotisch 無生活力の。
Abiotrophie *f* 無生活力。
Abirrun *f* 収差、迷行、錯行、錯乱。
abiuert ビクレット反応が欠けている。
Abjunktio *f* 関節形成、分節。
Abkapselung *f* 被包。fibröse A. 纖維
被包。Abkantung *f* 收縮。[性被包]。
abkünden 遷延する。
Abklatsch-karzinom *n* 接触癌(互に接
触する二面に発生した癌)。-metastase
f 接触転移、圧転移。-präparat *n* 押
圧標本。
Abklatschung *f* 拍打法(水に浸してしば
その布を身体に巻きつけて充分に包み、
その上から平手で拍打する方法)。
Abklingen *f* 漸減、消え行き、崩壊、消滅、
消滅。
Abklingungskonstante *f* 消滅常数(放
射能物質が元の量の半分までに分解する
に要す時間。半減期 = Halbwertszeit)。
Abknickungsfraktur *f* 屈折骨折。
Abkochung *f* 煎煮、煎汁、煎劑。
Abkömmling, Abkomme *m* 子孫、孫。
Abkratzung *f* 擦過、刮削。[專体]。
Abkühlungsgröße *f* 冷却力。-kurve
f 冷却曲線。
ablatat(-us, -a, -um) 離乳時の。
Ab lactatio *f* 離乳 = Entwöhnung。
Ablautern *n*, Abläuterung *f* 消聲消過。
Abläuterungsapparat *m* 消聲器、消聲
機。[音、貯蔵、沈降物 = Deposition]。
Ablagerung *f* 蓄積、付着物、浸潤、沈
Ablaktation *f* = Ablactatio。